長崎県外来種リスト　普及版

＜リストの構成＞
１．アライグマ
２．アカミミガメ
３．ウシガエル
４．ブルーギル
５．オオクチバス
６．カダヤシ
７．ツマアカスズメバチ
８．セアカゴケグモ
９．アメリカザリガニ
１０．外来ノアサガオ類
１１．オオカナダモ

自然環境課生物多様性保全班

令和7年6月

＜本リストの公表にあたって＞

・一般に、外国から日本に入ってきた生き物を「外来種」と呼び、希少な生き物や農作物を食べつくす、人へも感染する恐れのある病気を媒介する等、生態系や私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

・長崎県では、貴重な生き物や私たちの暮らしを守るための外来種対策の資料として、「県内で注目すべき外来種」などを新しく追加した「長崎県外来種リスト改定版」を令和７年６月に公表しました。

・長崎県外来種リスト普及版は、上記リストに掲載された外来種のうち、とりわけ対策が急がれている種、身近にペットとして飼育されており、拡散防止を呼び掛ける必要がある種を基準に、計11種を選びました。

・例えば、アメリカザリガニやアカミミガメ（通称ミドリガメ）は、これまでペットとしても親しまれてきた生き物で、大好きなお子さんもいることでしょう。しかし、野外に放たれてしまえば、元から日本でくらしている生き物が絶滅してしまうことさえあるのです。

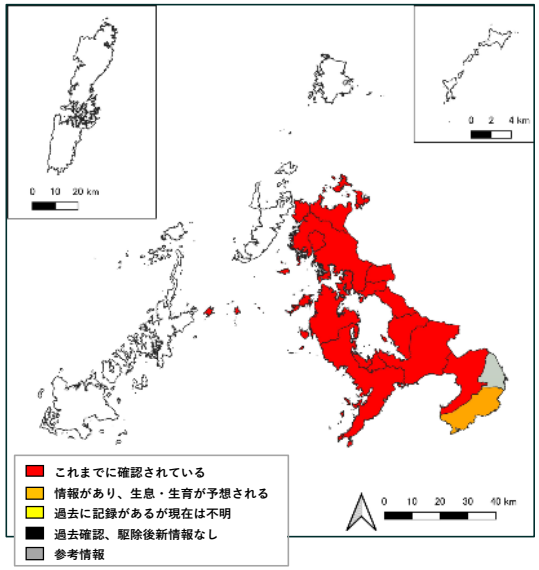
・この普及版を通して、まずは外来種問題について知るきっかけになればと考えています。同時に、この問題を通して、長崎県の自然環境の素晴らしさ、大切さについても再認識していただければ幸いです。

かけがえのない長崎県の自然を私たちの手で守っていきましょう。

～手先が器用で凶暴な大食漢～

アライグマ （食肉目アライグマ科）

国：特定外来生物　県：対策緊急度Ⅰ



▲みられる場所（県外の例）

▲足跡（5本指で、子どもの手形に似てます）

▲食害されたスイカ（くり抜きながら器用に食べます）

▲水辺の生き物はアライグマに食べられて大きな被害を受けています（左：サワガニ　右：カスミサンショウウオの卵塊）

＜基本データ＞

■もともといた国	カナダ南部からパナマ原産
■大きさ	頭胴長：42～60cm、尾長：20～41cm
■長崎県内で主にみられる地域	壱岐・対馬・五島を除く県内全域 （現時点では県北地域に多い）
■みられる場所	森林、湿地、市街地などの幅広い環境 屋根裏など、屋内にも侵入することもあります。
■特徴	眉間に黒い筋模様、尾にシマシマ模様があります。 足跡は5本指で、子どもの手形に似ています。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	県下では、希少なサンショウウオやカエル、サワガニを食べつくすなど、深刻な被害を及ぼしています。また、屋根裏に侵入し糞尿をまき散らす被害も報告されています。アライグマは人にも移る狂犬病などを媒介するため、健康被害も心配です。また、今後も分布を拡大した場合、ブトウやビワなどの農業被害も一層懸念されます。
■対策事例	狩猟免許取得者や駆除業者による箱ワナでの防除など

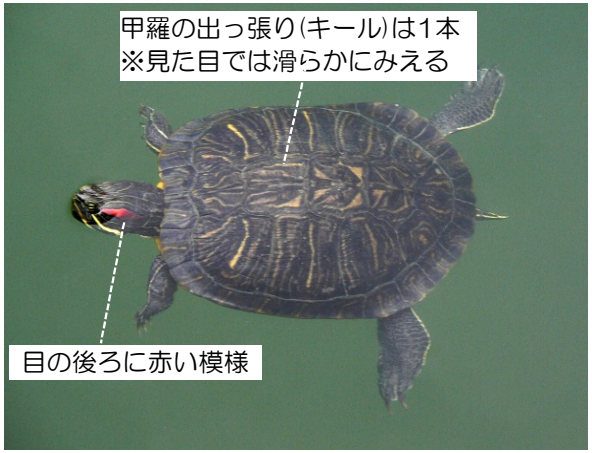
＜アライグマと似ている動物たち＞

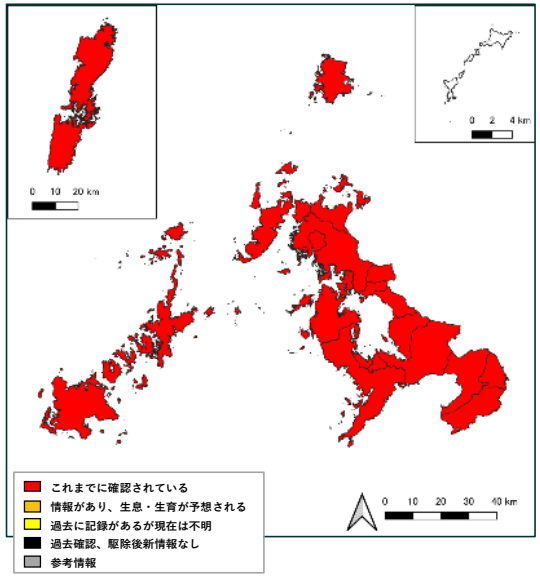
タヌキ　　アナグマ

～みんな知ってるミドリガメはぼくのこと～

アカミミガメ （カメ目ヌマガメ科）

国：条件付特定外来生物　県：対策緊急度Ⅲ





▲みられる場所（写真右は県外の例）

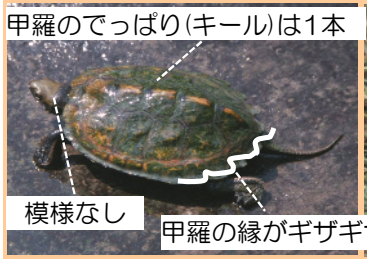
大きくなること、長い付き合いになることを覚悟して、
飼育するようにしてね♪
野外には絶対に放さないでね！
（※飼育個体を野外に放つと法律で罰せられます）

▲子どものアカミミガメは、通称「ミドリガメ」と呼ばれ、かつては良くペットショップでも見かけました。
この手のひらに乗るほどの小さなカメは、やがて巨大に、そして性質も荒くなります。寿命も30年以上あるため、カメのためにも安易な飼育は避けましょう。

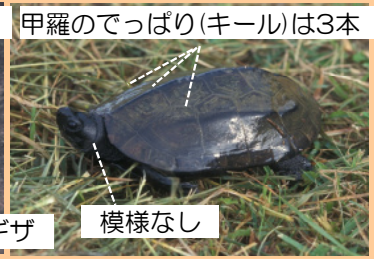
＜基本データ＞

■もともといた国	アメリカ、メキシコ
■大きさ	背甲長（最大）：オス20cm、メス28cm
■長崎県内で主にみられる地域	県内全域 （近年、離島部では福江島で増加傾向。壱岐、対馬はクサガメが多い）
■みられる場所	湖沼、ため池・濠、流れの緩やかな河川
■特徴	目のうしろに赤い模様があるのが名前の由来です。小さな頃は体全体が緑色ですが。大きくなるにつれて濃い緑～茶色味が強くなります。 オスの個体では、目の後ろの赤い線が見えにくくなるものもいます。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	ニホンイシガメ（希少種）のすみかや食べ物を横どりします。県下では確認されるカメのほとんどがアカミミガメとなってしまいました。 また、他県では観光地のお濠のハス、食用レンコンをアカミミガメが食べつくすなど、人間にも大きな影響を及ぼすことが知られています。
■対策事例	カゴワナを用いた防除、ハス田における食害防護柵の設置など

＜アカミミガメと似ているカメたち＞



ニホンイシガメ（在来種）



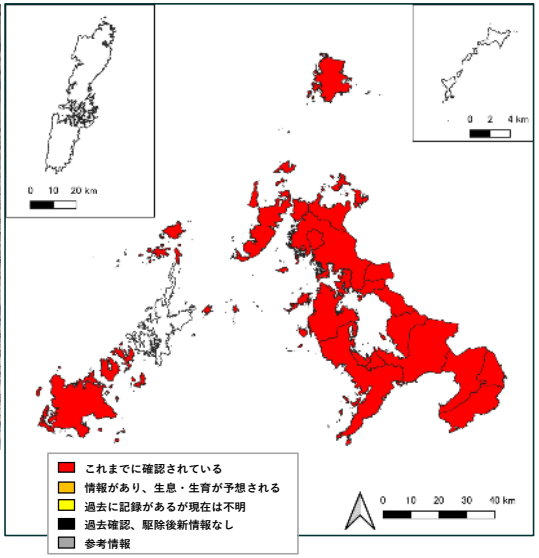
クサガメ（外来種）

～なんでも丸のみ、日本最大のカエル～

ウシガエル （無尾目アカガエル科）

国：特定外来生物　県：対策緊急度Ⅰ

※別名：食用ガエル



▲ウシガエルの卵塊は、約50×50㎝四方のシート状に広がるのが特徴です。産みたての卵塊は泡立って見えます（左）

▲みられる場所

▲ウシガエルの幼生も非常に大きくなります

＜基本データ＞

■もともといた国	アメリカ、カナダ、メキシコ
■大きさ	体長：15cm程度（最大20cm）
■長崎県内で主にみられる地域	対馬を除く県内全域
■みられる場所	湖沼、ため池・濠、流れの緩やかな河川
■特徴	大人のウシガエルはとにかく大きく、日本最大のカエルです。体全体が緑色で、こげ茶のマダラ模様があります。目の横にある鼓膜が目立ちます。「ヴォーン、ヴォーン」と大きな声で鳴きます。
■どうしているといけないの？（具体的な被害）	口に入るものは何でも食べてしまうので、もともと水辺にいた生き物が食べつくされます。県下でもウシガエルが侵入した水域では水生昆虫が激減します。 また、民家近くの人工的な貯水池でもくらせるので、夜間の鳴き声による騒音被害も知られています。
■対策事例	ワナ類による防除など。卵塊や幼生の徹底除去も有効と思われる。

＜ウシガエルと似ているカエルたち＞

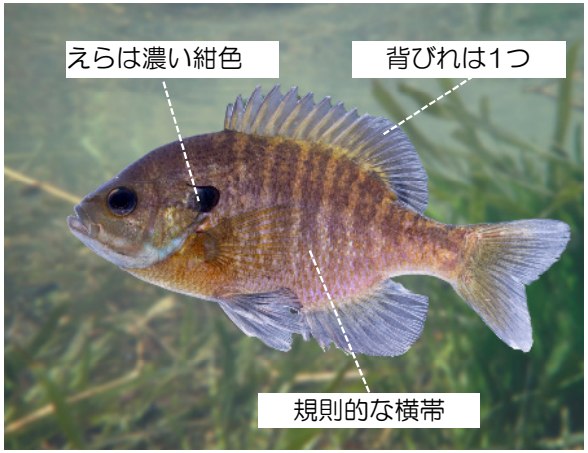
ニホンヒキガエル

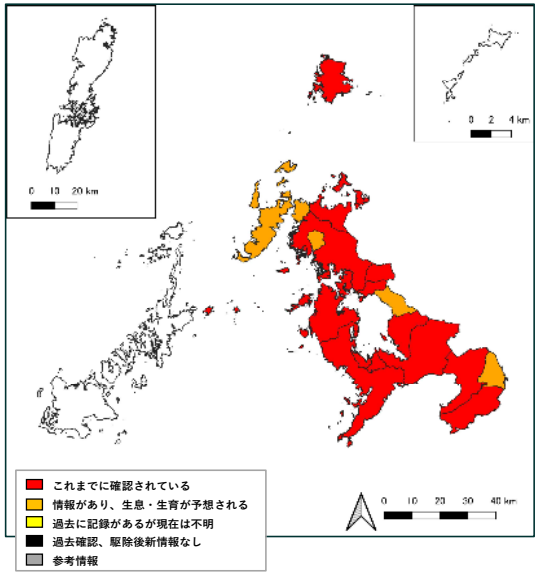
トノサマガエル

～青いエラの淡水魚ギャング～

ブルーギル （スズキ目サンフィッシュ科）

国：特定外来生物　県：対策緊急度Ⅱ





▲みられる場所

▲ブルーギルの幼魚
成魚よりもシャープです

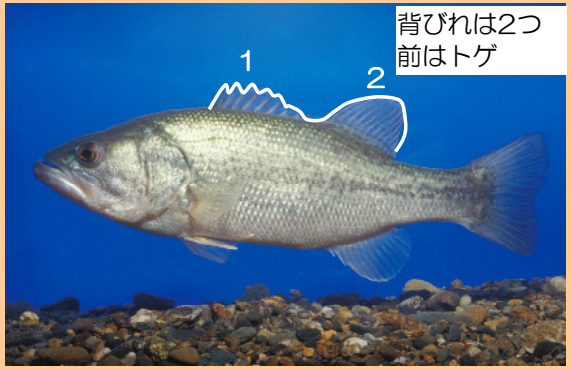
＜基本データ＞

■もともといた国	アメリカ、カナダ、メキシコ
■大きさ	体長：最大30cm程度
■長崎県内で主にみられる地域	五島を除く県内全域
■みられる場所	湖沼、ため池、河川下流 （県下の具体例：長崎市浦上川、浦上貯水池）
■特徴	えらに濃い紺色の斑紋、背びれは2つ。その前方はトゲがあります。 体には規則的な横帯がありますが、大きくなるにつれ不鮮明になります。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	水草や水生昆虫、魚の卵、貝類などを食べつくしてしまい、ブルーギルばかりになってしまったため池、湖も多くあります。 また、オオクチバスと一緒に蜜放流されることもあり、こうして増えた外来魚たちが私たちの漁業にも深刻な被害を与えています。
■対策事例	漁具による捕獲、水抜きなどによる防除

＜ブルーギルと似ている魚＞

～背びれの数にも注目してみましょう～

ブルーギル



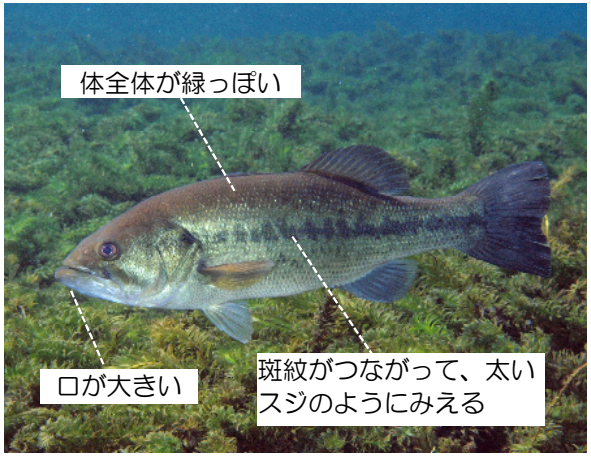
オオクチバス

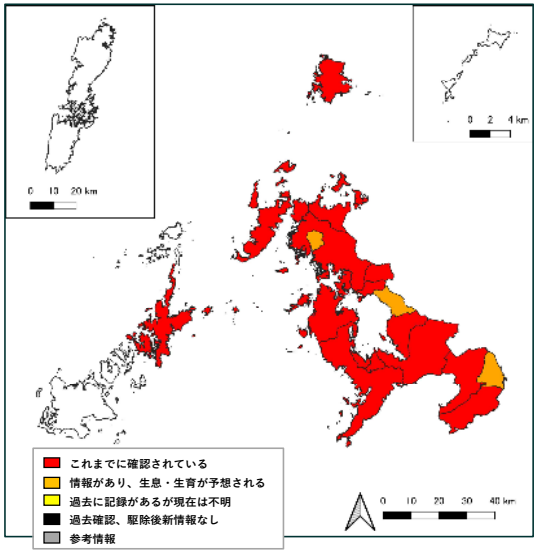
～淡水魚のフードファイター～

オオクチバス （スズキ目サンフィッシュ科）

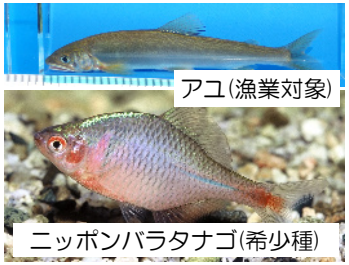
国：特定外来生物　県：対策緊急度Ⅱ

※別名：ブラックバス





▲みられる場所



▲いろいろな淡水魚が外来魚に食べられて大きな被害を受けています。その中には、漁業対象種、希少種も含まれています。

＜基本データ＞

■もともといた国	アメリカ、カナダ、メキシコ
■大きさ	体長：通常30～50cm、最大97cm
■長崎県内で主にみられる地域	対馬を除く県内全域
■みられる場所	湖沼、ダム湖、ため池、公園の池、河川中下流
■特徴	体形は海でくらす「スズキ（シーバス）」に似ています。名前の由来となっているように、口が大変大きいです。また、体には不明瞭な太く黒いスジが１本あります。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	ブルーギルと同じく、日本にもともといた生き物を食べつくし、私たちの漁業にも深刻な被害を与えています。食べられる魚の中にはメダカやタナゴ等の希少種も含まれ、彼らを絶滅に追いやっています。 また、小魚を餌にするコサギやカイツブリ等の水鳥への影響も指摘されています。
■対策事例	漁具による捕獲、水抜きなどによる防除、人工産卵床の設置など。

＜オオクチバスと似ている魚たち＞

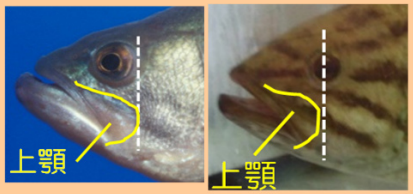
～体の色、アゴの形にも注目してみましょう～

ヒレの数を比較し、ブルーギルではなかった
でも、オオクチバスでもないみたい・・・

体の色は？

銀白色　　緑っぽい

▲スズキ（シーバス）
若いスズキは川でみられることもあります。



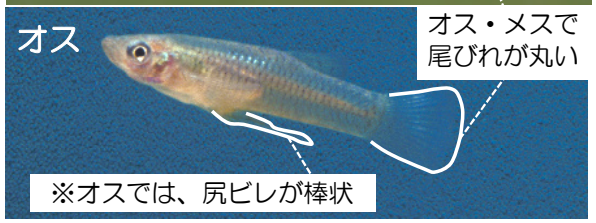
▲上あごの骨が目の後ろに達したら、オオクチバス（左）
上あごの骨が目の中心ぐらいだとコクチバス（右）です。コクチバスもいろいろな魚を食べてしまう外来魚です。

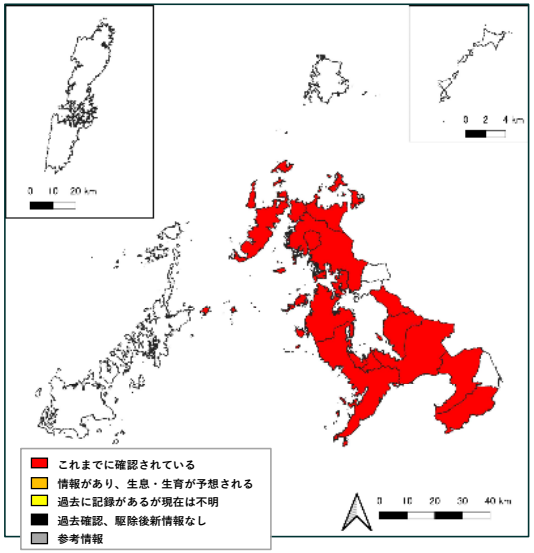
※コクチバスの写真は、以下から引用し、加工したものです
出典：環境省HP（https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html）

～メダカのふりして外来魚～

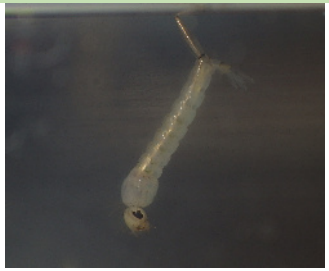
カダヤシ （カダヤシ目カダヤシ科）

国：特定外来生物　県：対策緊急度Ⅱ





▲県外の例

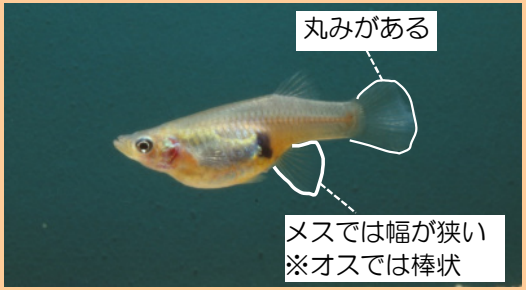


▲蚊の幼虫（ボウフラ）
カダヤシは「蚊絶やし」と書くように、日本へはボウフラ退治のために持ち込まれました。

＜基本データ＞

■もともといた国	アメリカ
■大きさ	体長：オス３cm、メス５cm
■長崎県内で主にみられる地域	壱岐・対馬・五島を除く県内全域
■みられる場所	田んぼや池、流れの緩やかな河川、水路 （みられる場所もメダカとよく似ています）
■特徴	メダカ（正式にはミナミメダカ）と非常によく似ています。しかし横からみると、尾びれ、しりびれの形が違うことが分かります。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	蚊の幼虫（ボウフラ）を退治のために日本につれてこられましたが、餌を横取りしたりすることで、メダカを駆逐してしまいます。 私たちにとって身近だった「メダカの学校」は、水辺の消失以外に、カダヤシによっても失われ続けています。
■対策事例	具体的な駆除方法は未確立。意図せぬ放流を防ぐための啓発も重要。

＜カダヤシと似ている魚＞



カダヤシ

ミナミメダカ

ミナミメダカとカダヤシは非常に良く似ているので、横から比べるのが一番です。正確に見分けて、貴重なメダカの生息地を守っていきましょう。

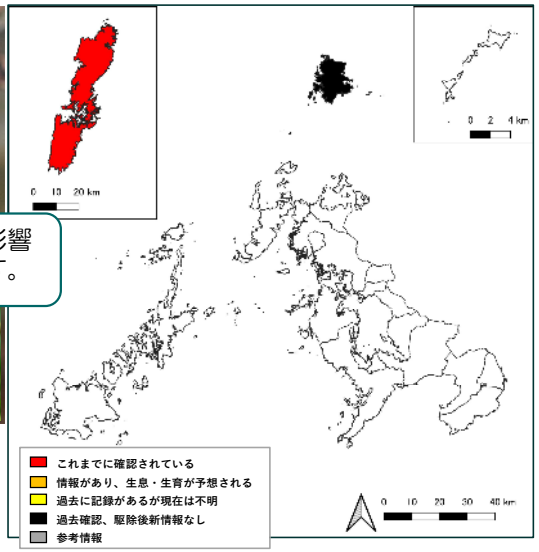
～本土侵入を狙う小さな狩人～

ツマアカスズメバチ （ハチ目スズメバチ科）

国：特定外来生物

県：対策緊急度Ⅰ

出典:環境省HP（https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html）



＜基本データ＞

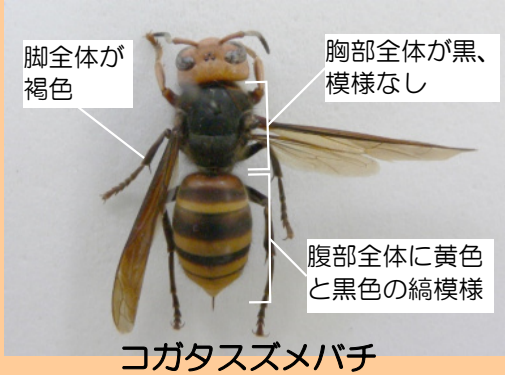
■もともといた国	南アジア、東南アジア、中国南部などに広く分布
■大きさ	体長：女王バチ2.3～3.0cm、雄バチ2.0～2.5cm、働きバチ2.0～2.3cm
■長崎県内で主にみられる地域	対馬
■みられる場所	森林、住宅地、公園の茂みや低木、樹木に巣を造り、花や果実、ミツバチの巣の近く（養蜂場）
■特徴	日本にもともといるスズメバチ類（キイロスズメバチなど）とよく似ています。他のスズメバチ類とは、胸部と腹部、脚の色・模様が違います。
■どうしているといけないの？（具体的な被害）	他のスズメバチと同様、人を刺す危険生物です。まずは安全衛生の観点から定着、拡散を防ぐ必要があります。 また、養蜂場のミツバチを襲う被害もあります。さらに、在来のスズメバチ類と餌や巣作りの場所をめぐって競争が起きる可能性もあります。
■対策事例	トラップによる防除など（※駆除は専門業者に依頼しましょう）

＜ツマアカスズメバチと似ているハチたち＞

出典:環境省HP（https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html）

ツマアカスズメバチ

キイロスズメバチ



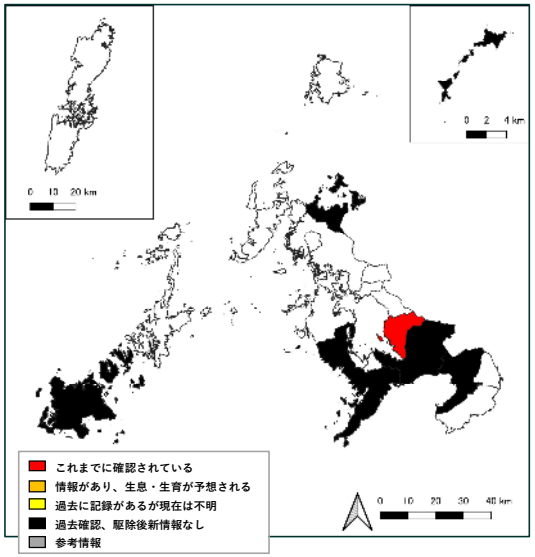
コガタスズメバチ

～おとなしいけど触ると危険～

セアカゴケグモ （クモ目ヒメグモ科）

国：特定外来生物　県：対策緊急度Ⅰ

▲オスだけだと判断が難しいです。
不安な場合は業者や専門家に相談しましょう



▲みられる場所（県外の例）

ぼくはコガネグモ
日本には無害なクモも沢山いるよ！むやみに怖がらないでね！

＜基本データ＞

■もともといた国	オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋諸国
■大きさ	体長：オス0.3～0.4cm、メス1.2～1.5cm
■長崎県内で主にみられる地域	県央（大村市）
■みられる場所	森林、裸地、住宅地、公園、港湾、墓地など （これらの周辺にある側溝蓋やベンチの裏側、石積みの隙間、古タイヤの内側に巣をつくります）
■特徴	オスとメスで外見が違います。メスの腹部（表と裏）には赤い模様があります。裏の模様は砂時計のような形をしています。 オスはメスよりも小さく、体全体が茶色っぽい色合いです。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	メスは毒をもち、かまれると危険です。また、色々な昆虫を食べるので、街中に留まらず広範囲に拡散した場合、生態系への影響も心配されます。
■対策事例	殺虫剤を用いた駆除など

＜セアカゴケグモと似ているクモ＞

セアカゴケグモ

オオヒメグモ

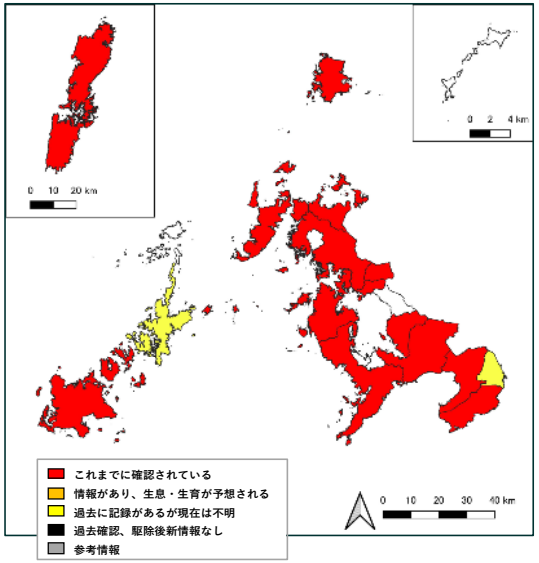
～入ると最後、何でも食べつくす赤い悪魔～

アメリカザリガニ （エビ目アメリカザリガニ科）

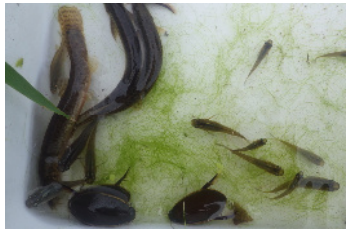
※別名：エビガニ、マッカチン

国：条件付特定外来生物

県：対策緊急度Ⅰ



▲みられる場所（五島列島福江島の例）



▲ワナによるアメリカザリガニ防除(左)、希少種の調査(右)

福江島のため池には、希少な生き物がくらしています。しかし、アメリカザリガニが侵入し、希少種がいなくなるなど大きな問題となっています。自然の再生には、防除と生息地を拡げさせないための普及啓発が重要となっています。

＜基本データ＞

■もともといた国	アメリカ、メキシコ
■大きさ	体長：10㎝前後
■長崎県内で主にみられる地域	県内全域
■みられる場所	田んぼやため池、流れが緩やかな水路、河川 （県下の具体例：五島市福江島、長崎市黒崎湿地など）
■特徴	大人のアメリカザリガニは体全体が赤みを帯びていますが、幼体は茶色です。日本にもともといる「ニホンザリガニ」も茶色なので良く間違われますが、ニホンザリガニは北海道、東北にしかいません。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	アメリカザリガニは元々成り立っていた生態系そのものを壊す恐ろしい外来種です。県内では、五島市福江島にある希少種の宝庫となっているため池群にアメリカザリガニが侵入し、水草や水生昆虫が激減するなどの深刻な被害が出ています。このほか、田んぼの畔に巣穴を掘り、水漏れを起こすなどの農業被害も心配されます。
■対策事例	ワナ類やタモ網による防除、ため池の低水位管理による低密度化など

＜アメリカザリガニ(幼体)と似ているエビ＞

アメリカザリガニ
（幼体は茶色）

もし飼っていたら最後まで大切に飼育してね♪
絶対に野外に放さないでね！
（※飼育個体を野外に放つと法

ヒラテテナガエビ

名前のとおり、腕がとても長い

～年中咲いてるアサガオの正体～

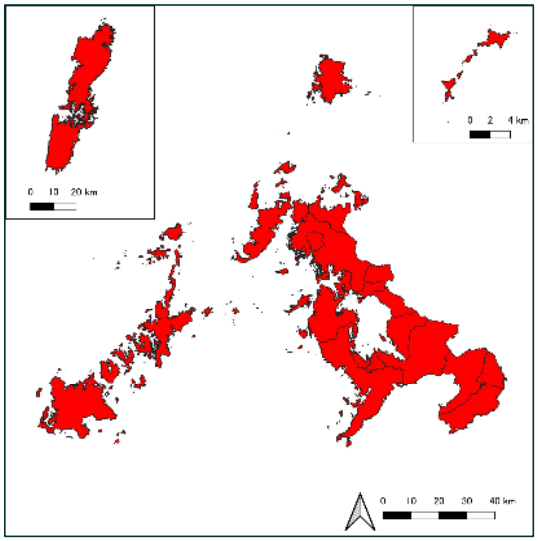
外来ノアサガオ類 （真正双葉類ヒルガオ科）

※特にオオバアメリカアサガオ

国：総合対策外来種

県：対策緊急度Ⅱ

▲時に「オーシャンブルー」という品種名で販売されていることがあります。



▲黄色の線で示した範囲に、オオバアメリカアサガオがマント状に広がっています。
このように一面を覆ってしまうと、元から生えていた草木に光が届かなくなり、枯れてしまうこともあるでしょう。
きれいな花を咲かせる外来植物ですが、タネがこぼれたりしないように、庭先などの人の目が届く場所で楽しみたいものです。

＜基本データ＞

■もともといた国	熱帯アメリカや熱帯アジア
■大きさ	長さ：数mから10m以上
■長崎県内で主にみられる地域	県内全域（特に西彼杵半島などに多い）
■みられる場所	海岸、耕作地、林縁、川岸、草地、道ばたなど
■特徴	在来種のノアサガオとよく似ていますが、花の大きさ・模様が違います。
■どうしているといけないの？（具体的な被害）	マント状に広い範囲を覆い、樹木などの他の植物が生育できないようにしてしまいます。 在来種のノアサガオと交雑して外来種との雑種が増え、純粋な在来種のノアサガオがなくなってしまいます。
■対策事例	抜き取りによる除去など

＜外来ノアサガオ類と似ている植物＞

ノアサガオ
（もともと日本でくらすアサガオの仲間です）

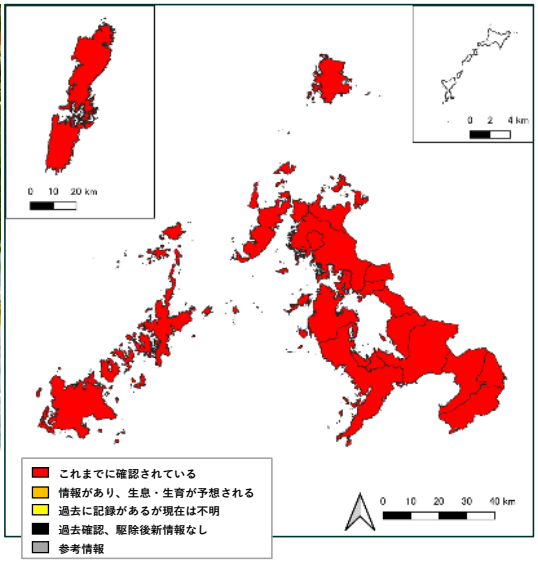
～ちぎれても復活、しぶとい水草～

オオカナダモ （単子葉類トチカガミ科）

国：重点対策外来種

県：対策緊急度Ⅱ

※別名：アナカリス



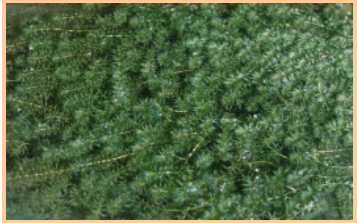
▲みられる場所（写真右は県外の例）
少し流れのある場所でもへっちゃらです。少しの破片からも瞬く間に広がってしまいます。

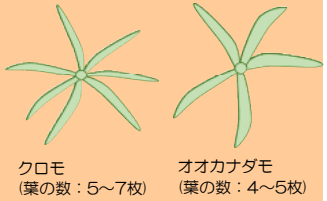
▲オオカナダモに卵を産むトンボたち（写真は身近な川でみられるハグロトンボ）。
外来種の水草ばかりが増えると、トンボたちもそれを利用するしかありませんが、本来のトンボたちの姿ではありません。トンボたちが本来の暮らしができるよう、水草を別の場所に投棄しないようにしましょう！

＜基本データ＞

■もともといた国	南アメリカ
■大きさ	長さ1～5m
■長崎県内で主にみられる地域	県内全域
■みられる場所	湖沼、河川、池、水路など
■特徴	通常、葉は一か所につき4枚です。それぞれの葉は長さ20～30mm、幅3～6mm程度で、よじれません。これら細部の特徴は、日本にもともと生えているクロモとよく似ているため注意が必要です。
■どうしていると いけないの？（具体的な被害）	ちぎれた一部の茎からも再生できるため、一度侵入すると取り除くことが難しくなります。旺盛な繁殖力で水面を覆ってしまうため、ほかの水草が生育できなくなります。こうした光景は県下でもみられます。 このほか、農業用水路に繁茂することで水の通りを悪くします。
■対策事例	抜き取りによる除去など

＜オオカナダモと似ている水草＞





▲クロモ
（葉っぱの枚数がオオカナダモより少し多い）